

「おっさん女子大生」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

先日の 3 月 23 日、お茶の水女子大学講堂で、学部の卒業式と、大学院の修了式がありました。



はかま姿の女子大生、女子大学院生で、大学講堂前には実に華やかでした。例年は、これに保護者の方が加わってごった返しているのですが、今年は感染症拡大防止対策で、保護者の入構は一切禁止、男性の姿はほとんどありませんでした。



そこに現れた一人の「超あやしいおっさん」・・・あ、私です。卒業生の保護者として・・・?いや、そうではありません。この日、私自身がお茶の水女子大学大学院を「修了」したのです。実は、この 2 年間、私はお茶の水女子大学の博士前期課程に籍を置く、「おっさん女子大生」だったのです。講堂での修了式では完全に「場違い」で、終わったら「ドッキリカメラ」の札を出されるんじゃないかと、最後までドキドキし

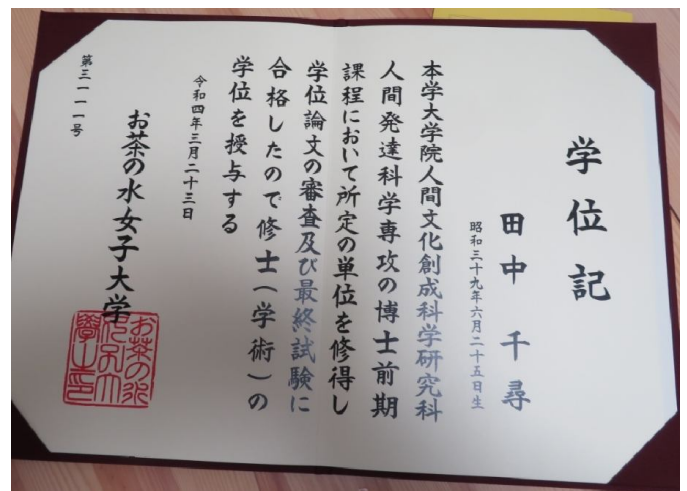
て座っていました。

2 年前の令和 2 年 4 月に、お茶の水女子大学の大学院を受験し、「大学院人間文化創生学研究所・人間発達科学専攻・教育科学コース」という、いまだに覚えられないほど長い名称のコースに入学しました。当時はコロナ禍が最も深刻な時期で、5 月から始まった授業(ゼミ)は、すべてオンラインでした。一緒に学んだ院生さんとは、ついに一度もお会いしませんでした。

ゼミには博士後期課程の方も参加していたので、非常にレベルが高く、長年小学校の実践しかなかった私には、ぜんぜんついていけませんでしたが、しかし、お茶大の先生方は、全員「知の巨人」で、何を質問しても即答で返ってくるので、ただただ感心してしまいました。1 年目で 20 単位以上を取得するのは大変でしたが、実に楽しく、意味のある学びでした。

令和 3 年度は、小学校の担任をしながら、修士論文を執筆することになり、なかなか大変でした。少しずつ執筆してはいたのですが、1 月の論文提出間際まで、指導教官の先生には修正を繰り返し指導していただき、やっとの思いで提出できました。

論題は「小学校理科における地学指導の実践的考察—天文領域を中心として—」としました。先行研究の少ない分野でしたが、模擬授業や実践研究、論文引用などで、多くの先生方にお世話になりました。



140 年間で、お茶大を卒業・修了した男性は、私で 3 人目だそうです。それよりも、昭和 39 年生まれのおっさんが、この歳で本当に修士の学位記を手にするとは、夢にも思っていませんでした。修論執筆を通して先行論文を分析する中で、「日本の地学教育史」の研究が遅れていることに気づきました。今後の自分の研究テーマの一つにしたいと考えています。